

農地整備と農地中間管理事業との連携

加速した担い手への農地集積

新たな担い手への農地集積方法、農地中間管理事業が創設されると知ったのは、農地整備実施後3年目の年。県や村、機構担当者の説明に、これは好機と考えた国分代表は、農事組合法人の設立と、法人への農地集積を一気に推進できると半ば確信した。と語ってくれた。

農地整備により、水田の大区画化（当地区は1枚約60〜140アール）を図り、担い手への農地集積や農作業機械の大型化による生産コストの低減と、担い手の育成確保や安定した農業経営の実現を。

更に、農地中間管理事業により、公的機関（やまがた農業支援センター）が当法人（担い手）への農地集積を確実に進める仕組みとなった。その結果、当地区の場合、集落の8割の農家（18軒中14軒）の農地について機構事業を活用し当法人が担うこととなった。また、機構集積協力金の存在も大きな一助となった。と付け加えた。



「機構事業が大きな一助」と語る国分代表



出し手農家も共同作業に参画

地域の農地を守る仕組み

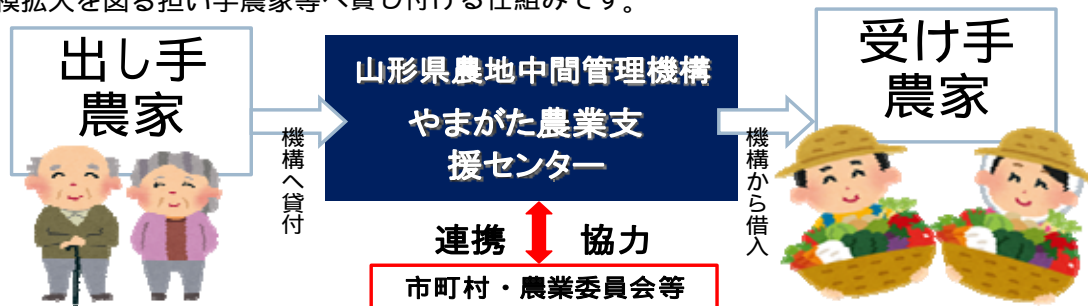
同ファームでは、「日本で最も美しい村」の農地で、減農薬と独自の有機肥料によるお米（はえぬき）を栽培。

安全・安心、美味しいお米との評価から、県外の社会福祉施設との直販、産直からの口コミによる個人販売先の増加など、消費者との結び付きを強め、法人経営の安定化に取り組んでいる。



大好評「与平治の米」

「農地中間管理事業」は、農地中間管理機構が農地を貸したい農家から借り受け、農業経営の効率化や規模拡大を図る担い手農家等へ貸し付ける仕組みです。

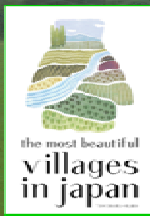


公益財団法人 やまがた農業支援センター（山形県農地中間管理機構）

農地中間管理 電話023-631-0697 FAX 624-6109

ホームページ <http://www.yamagata-nogyo-sc.or.jp/>

問い合わせ先： 農事組合法人このこのファーム 電話 0233-75-2303
大蔵村産業振興課 電話 0233-75-2111



緊急報告！「このこの」言いながら

元気な地域づくり、進めています！



農地整備と農地中間管理事業との連携 (大蔵村赤松通り地区の場合)

ここに住みつづける

霊峰月山・葉山の北麓に位置する大蔵村。

「日本で最も美しい村」連合に加盟、失ったら二度と取り戻せない農山漁村の景観・文化を守りつつ、最も美しい村としての自立を目指す運動に取り組んでいる。

ここに集う「オレンジカラー4人衆」。営々と育まれた農地、水、文化を継承し、次代を担う若者たちが働き暮らし続けられる地域、将来にわたり若者たちが働く雇用の場が創出され地域経済が発展する地域、そして住み続けることが出来る地域づくりを進めている。

起点は、地域で話し合い取り組んだ「農地・水・環境保全向上対策」。話し合いは更に、後継者不足問題、大型農業機械が入れない未整備農地対策へと進んだ。

「地域の農地を守る」と「オレンジカラー4人衆」は、「農事組合法人このこのファーム」を設立、地域農業の継承と雇用の場づくりにと取り組みを進めている。

同ファーム代表を務める国分亨さんは、「ここに住みつづける一念で地域はひとつになった」と言う。

「本番はこれから、しっかりと農地整備と農地中間管理事業との連携がそれを強力にサポートしている」と続けた。



人気上昇中！
“おおくらくん”

オリジナルユニフォーム
東北芸術工科大学学生デザイン

